

ニホンジカ被害拡大危機対策

広域的監視体制を強化、新たな被害対策技術の実証、有識者を交えた検討会の開催などに取り組みます

背景

- 全国各地の森林や農地で、甚大なシカ被害が発生している。



シカの背が届く範囲に均一に被害が発生（長野県）

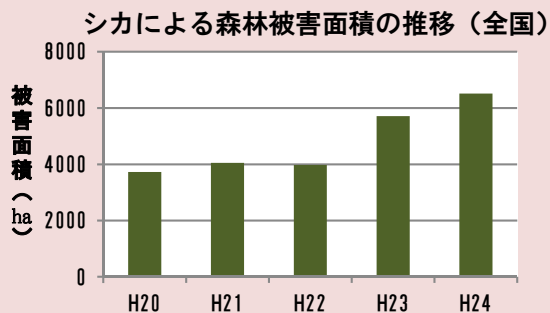


シカ食害により10年間のうちに植生が喪失（熊本・宮崎県境、左:1997年 右:2009年）

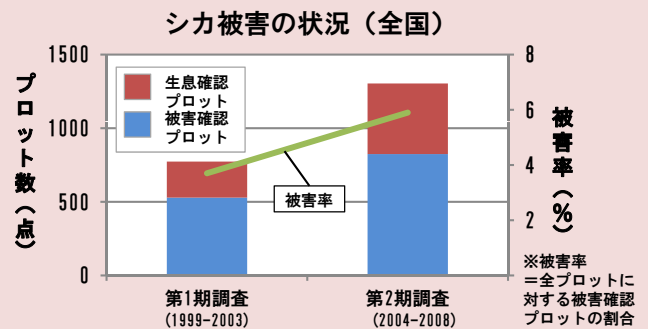


農地への侵入により、稲の食害など農作物への被害が発生

- シカの生息数・被害面積は全国で急速に増大している。



（出典）林野庁「各獣別森林被害面積の年度推移」



（出典）林野庁「平成24年度 森林・林業白書」

- 東北森林管理局管内においてもシカの分布が拡大しており、造林地被害および早池峰山や白神山地周辺の自然植生への影響が懸念される。



群れで移動するシカ

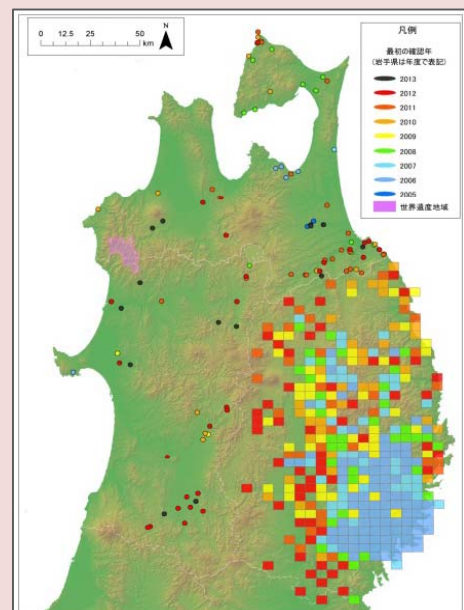


苗木の食害（遠野支署管内）



樹皮剥ぎ被害（遠野支署管内）

北東北3県におけるニホンジカ情報



注）岩手県は2012年度までの5kmメッシュごとの目撃・捕獲情報

（出典）第8回白神山地世界遺産地域科学委員会資料

【平成26年度の主な取組予定】

● 東北5県の国有林全域を対象とした監視体制の強化

県域を越えて配置されている国有林の組織力を活かし、ニホンジカの広域監視体制を創設します。チェックシートを活用し、職員による情報収集はもちろん、国有林野で作業を行う事業者や入林者に働きかけ、国有林に係る関係者の総力を挙げてシカの子撃情報を収集します。

また、これらの情報を踏まえ、有識者等を交えた検討会を開催し、東北地域のニホンジカ被害対策に取り組みます。



チェックシート

● 白神山地世界自然遺産におけるモニタリング体制を強化

新たにニホンジカ監視用のセンサーカメラ45台を設置し、モニタリング体制を強化します。



センサーカメラ

また、チェックシートにより収集する目撃情報と併せて、これらの情報を活用し、科学委員会の助言を受けつつ関係機関と連携して対策を進めます。



科学委員会での検討

● モデル地区を設定し、被害を防止するための新たな技術を実証

国有林内にモデル地域を設定し、新たなシカ捕獲手法等の技術についての調査・実証に取り組みます。

(新たな技術の例)



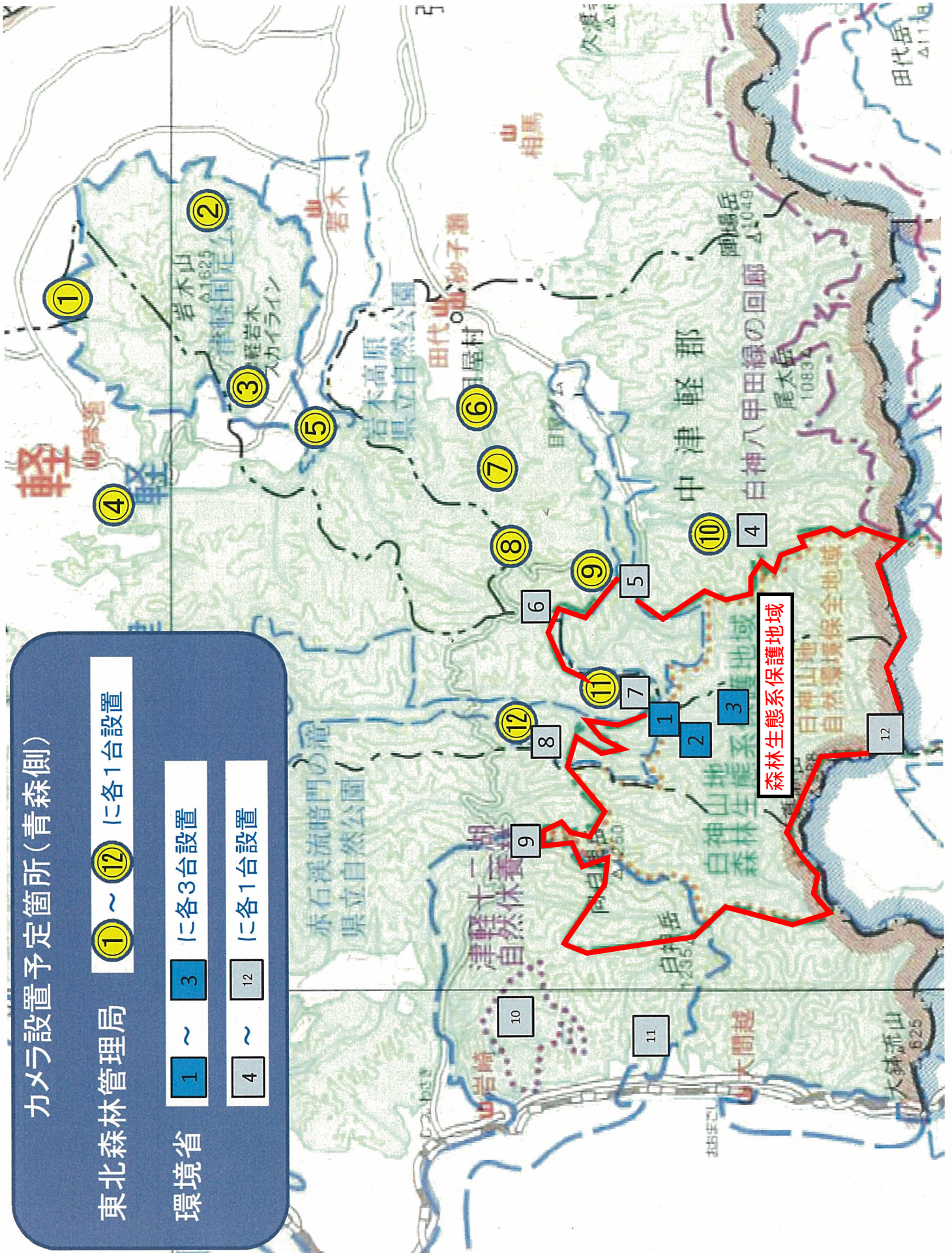
パッチディフェンス

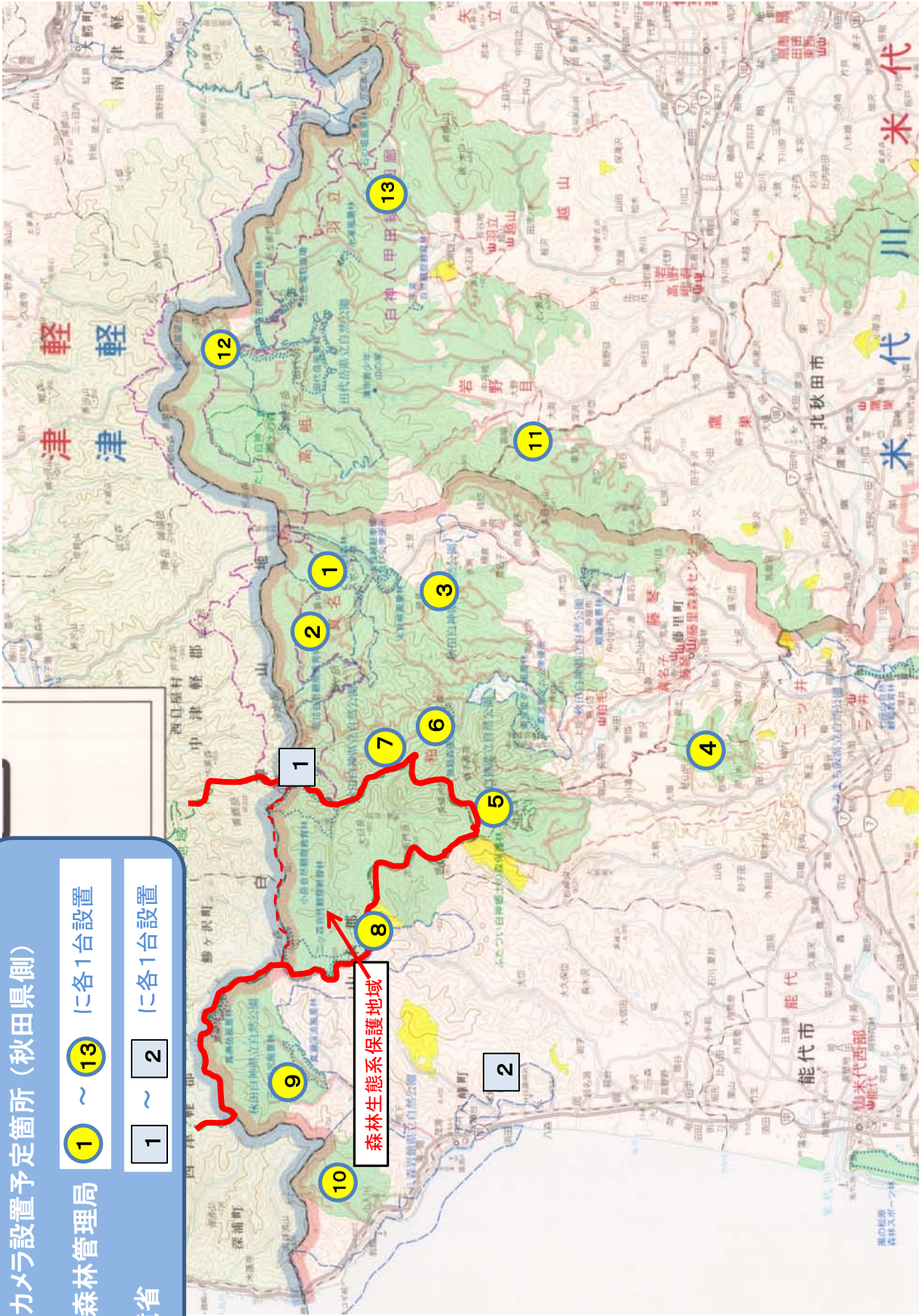


ドロップネット



シャープシューティング





カメラ設置予定箇所（秋田県側）

東北森林管理局 ① ~ ⑬ に各1台設置

環境省 ① ~ ② に各1台設置

森林生態系保護地域

(参考)

ニホンジカ影響調査・簡易チェックシート


場所	署名	事務所	林班	小班	緯度経度	北緯: ° ' "
調査日	平成	年	月	日	林相	東経: ° ' "
周辺環境	<input type="checkbox"/> 沢と隣接	<input type="checkbox"/> 畑・田と隣接	<input type="checkbox"/> 牧草地と隣接	<input type="checkbox"/> 左記以外	<input type="checkbox"/> 針広混交林	<input type="checkbox"/> 針葉樹林
					<input type="checkbox"/> 広葉樹林	

※ 該当する□にチェック を入れる。チェック漏れのないよう確認すること。
 ※ 針葉樹林・広葉樹林とは、それぞれの針葉樹・広葉樹の材積歩合が75%を指し、それ以外を針広混交林とする。
 ※ 食痕の判断については、意識しないで食痕等が目につくのは「多い」、探さないで食痕等が見つからない場合は「わずかにある」とする。
 ※ 樹皮剥ぎ等の「新しい」は、直近の積雪期の樹皮剥ぎ等とする(暗く変色していないもの)。樹皮剥ぎ等比率は本数比率とし、目測でよい。
 ※ 植栽木の痕跡調査本数は、下刈期のものは50本を目安とするが、それ以上の林齢の箇所は適宜減らしてよい。


■A. ニホンジカの確認について

- A1. シカを見た、または声を聞いた。 見た(♂ 頭, ♀ 頭, 不明 頭) 声を聞いた 以前ここで見た 見ていない
- 死体・骨 角 痕跡はない
- A2. シカの痕跡があったか。 足跡・シカ道(ニホンジカ) 足跡・シカ道(シカ・カモシカ不明) 糞(ニホンジカ) 糞(シカ・カモシカ不明)

■B. シカの食痕について

- B1. 樹皮はぎがあるか。 見られる(新しい・古い) 見られない 
- B2. 下枝に食痕があるか。 見られる(新しい・古い) 見られない 傷があるが食痕かは不明
- B3. 草本・灌木に食痕があるか。 見られる(新しい・古い) 見られない 傷があるが食痕かは不明 植生がない
- B4. ササに食痕があるか。 見られる(新しい・古い) 見られない 傷があるが食痕かは不明 ササがない

■C. シカの影響について

- C1. 樹木(2m以上)の枯死 立ち枯れがある 見られない
- C2. 下枝(2m以下) 少ない(目安: 5本/100m²以下) 多い 
- C3. 小径木や灌木(2m未満) 少ない(目安: 5本/100m²以下) 多い
- C4. 草本・ササの量 豊富 疎生(原因: シカ・照度不足) ほとんどない(原因: シカ・照度不足)

※ 人工林では次の調査についても実施する。(植栽木50本程度について)

■D. 植栽木の被害について

- 調査本数: _____ 本 植栽樹種名: _____ 植栽年: _____
- D1. 新しい角こすりがみられる 約 _____ 本
- D2. 樹皮の食痕が見られる 約 _____ 本
- D3. 頂芽の食痕が見られる 約 _____ 本
- D4. シカによる幹折れの痕跡が見られる 約 _____ 本

自由記述欄(シカの被食状況や下層植生に関することで、気がついた点があれば記述する)
